

生態工学 2013 年第 2 回理事会議事録

日 時：2013 年 11 月 1 日（金）14:30～15:20

場 所：東京文化会館

出席者：会長、副会長、各委員会委員長および庶務理事

【総務委員会】

2013 年度生態工学会 第 2 回理事会

(1) 会員数・賛助会員数に関して報告があった。

(2) 審議事項

・共催（協賛）に関して

下記の会を共催として行う事が了承された。

・公開シンポジウム「都市農業の再構築における養液栽培と施設園芸の役割」

主催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会

備考：協賛金等の支出なし。

・SHITA シンポジウム

「植物工場の高付加価値・低コスト生産に向けた技術と戦略」

主催：日本生物環境工学会

・新理事に関して

田村治美先生並びに伊能利郎先生を承認した。

・日本農業工学会フェローの推薦依頼に関して

玉浦裕先生を推薦する事とした。

・農業環境工学関連学会 2015 年合同大会の参加に関して

参加する事とした。

日程：2015 年 9 月 14 日～18 日

場所：岩手大学農学部

(3) 報告事項

特になし。

以上

【編集委員会】

2013 年度編集委員会活動報告(10 月期)

1. 生態工学会誌の発刊に関して

下記の報告がなされた。

生態工学会誌「生態工学」25 巻 2 号～25 巻 3 号(2013 年 4 月、7 月発刊)を発行した(内容：原著論文 4、ニュース・企画・報告 2、お知らせ 2、投稿規程、総ページ 50)。現在準備中の 25 巻 4 号では、特別寄稿 1 報、原著論文 3 報を掲載予定。

なお、2013 年 10 月 15 日時点での査読中の論文は、原著論文 3 報である。

また、25 巻 3 号までを J-STAGE 上の電子ジャーナルとして公開した。

2013 年度「生態工学」掲載論文一覧

種類	第 25 巻			第 26 巻
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	2	2		
短報				
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿				
ニュース・企画・報告	1	1		

以上

【企画委員会】

2013年度企画委員会活動報告(10月期)

下記の報告がなされた。

11月1日現在までに下記企画の(1)～(3)を実施。今年度内に(4)～(5)の企画を実施予定。

(1) 日本地球惑星科学連合2013年大会（合同開催）

日 時：2013年5月19日（日）～24日（金）

会 場：幕張メッセ（千葉市）

主 催：日本地球惑星科学連合

セッション参加人数： 30名

特記事項：5月19日（日）にセッション「惑星と閉鎖生態系における生物のシステム—微生物からヒトまで」において、6件の口頭講演と4件のポスター発表を実施した。

(2) 2013年度生態工学会年次大会（主催）

日 時：2013年6月29（土），30（日）

会 場：玉川大学視聴覚センター（東京都町田市）

特別協賛：根研究学会

参加人数：92名

特記事項：一般セッション口頭発表 21課題、ポスターセッション21課題

特別講演会「生態工学における生物機能の利活用」

「ミツバチは環境指標生物か」／中村 純(玉川大学学術研究所教授)

「生態系サービス機能からみた樹木の根系」／平野 恭弘(名古屋大学大学院 准教授)

「LEDを光源とした野菜生産システムの開発」／渡邊 博之(玉川大学農学部教授)

施設見学会

(1) 植物工場研究施設（FSTラボ）

(2) LED野菜生産施設（LED農園）

(3) ミツバチ科学研究施設

(3) 第57回宇宙科学技術連合講演会（共催）

日 時：2013年10月9日（水）～11日（金）

会 場：米子ビッグシップ（米子市）

主 催：日本航空宇宙学会

セッション参加人数： 30名

特記事項：オーガナイズドセッション「宇宙で生きる！ ～人類居住環境の多様化～」を企画し、10日(木)に13件の口頭講演を実施した。

- (4) 第6生態工学定例シンポジウム・第3回陸上養殖勉強会合同シンポジウム（共催）
日 時：2013年11月8日（金）13：00～17：00 情報交換会 17：15～19：00
会 場：東京海洋大学品川キャンパス白鷹館2F多目的スペースI（東京都港区港南）
テ ー マ：資源循環利用型生物生産と閉鎖循環式養殖システム

特記事項：

- 13:00-13:10 開会の挨拶 生態工学会会長・陸上養殖勉強会幹事 竹内俊郎（海洋大）
座長 寺添 斉（電力中研）
- 13:10-13:45 生態工学会と陸上養殖勉強会のこれまでの活動状況及び陸上養殖について
・・・・・・・・・・竹内俊郎（海洋大）
- 13:45-14:20 農業・食品分野における LCA の近年の動向
・・・・・・・・・・林 清忠（農研機構）
- 14:20-14:55 未来産業型農業の展開 ―陸前高田と震災復興―
・・・・・・・・・・阿部隆昭（株・グランパ）
- 14:55-15:10 休 息
座長 舞田正志（海洋大）
- 15:10-15:45 生態工学的視点から見た水産養殖施設の設計事例―微細藻類と陸上養殖施設―
・・・・・・・・・・増田篤稔（ヤンマー・株）・遠藤雅人（海洋大）
- 15:45-16:20 アクアポニックス（水耕養殖）―海外での取り組みと日本の現状―
・・・・・・・・・・野原節雄（株・IMT）
- 16:20-16:55 陸上養殖とクルマエビ類微生物感染症について
・・・・・・・・・・廣野育生（海洋大）
- 16:55-17:00 閉会の挨拶 陸上養殖勉強会代表 廣野育生（海洋大）

(5) 定例研究会

第1回

テーマ：東日本大震災による被災農地の再生デザイン

日 時：2013年5月31日（金）

会 場：東京文化会館

講 師：土肥哲哉先生（理化学研究所）

第2回

テーマ：先進的技術の農業現場への導入―メタン発酵と農業―

日 時：2013年11月1日（金）

会 場：東京文化会館

講 師：相原秀基先生（株和郷）

第3回も理事会後に実施する予定

以上

【表彰委員会】

2013 年度表彰委員会活動報告(10 月期)

下記の報告がなされた。

1. 表彰式の実施

2013 年 6 月 29 日、玉川大学にて開催された 2013 年度総会の後に表彰式を行ない、以下の通り表彰した。

【生態工学会賞学術賞】

遠藤雅人

魚類の循環養殖システム開発および物質循環利用に関する研究

【奨励賞】

石川真純

温室内における蒸散要求度とそれがキュウリ植物の蒸散・葉コンダクタンスに及ぼす影響の季節変動：超音波式小型パン蒸発計を用いた実験

内藤裕貴

土壌線と最大植生被覆線を利用した反射率補正法に基づく植生指数 (raNDVI) の提案

野見山綾介

砂漠化進行畑作圃場における土壌の塩類集積に対する作物の物質吸収機能の影響:異なる植物種の影響

【講演論文賞】

山本 弾、齋藤高弘

抗酸化性を指標とした植物工場での光質の影響について

木村駿太、富田-横谷香織、加藤 浩、馬場啓一、佐藤誠吾

陸棲ラン藻 *Nostoc* sp. HK-01 の高温耐性に関与する多糖類の機能

2. 2014 年度学会賞候補者の募集

2014 年度学会賞候補者の推薦を募集した (vol. 25 No. 3 に掲載)。
締め切りは 10 月 31 日。

3. 2013 年度学会賞受賞者の紹介

2013 年度学会賞を受賞された方々の紹介記事を学会誌 vol. 25 No. 3 に掲載した。

4. 賞状および記念品の送付

2013 年次大会において講演論文賞 (2 件) を受賞された方々に、賞状と記念品を送付した。

以上

【広報委員会】

2013 年度広報委員会活動報告(10 月期)

下記の報告がなされた。

2013 年度活動報告

・SEE Quick 配信（メール配信）の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員並びに関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ 2013 年 5 月 11 日から 10 月 28 日までに 74 回（通算 830 回）情報提供を行った。今後も SEE Quick の配信業務を行いながら、問題点などを検証し改善に努める。

・HP の内容の更新

HP の内容のうち、会長の交代に伴う頁の更新などの原稿依頼を行った。

・学会リーフレットに関して

作成する事とした。

以上

【出版委員会】

ほぼ順調に原稿が集まりつつある旨の報告がなされ、来年秋までには本の出版が可能である旨の説明があった。

以上

【各支部】

関西支部より、平成 25 年 11 月 30 日（土）14：00-17：00 に大阪府立大学サテライトにおいて、農業気象学会と共催でシンポジウムを行う旨の報告があった。

以上

その他

・2014 年次大会は平成 26 年 6 月 13 日（金）・14 日（土）に静岡市内で開催される旨の報告があった。

・次回の総務委員会を平成 26 年 2 月 24 日（月）13：00 から、理事会を同日 14：30 から開催することとした。

以上